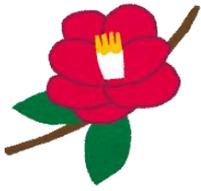




やぐもだい

令和7年2月28日
調布市立八雲台小学校
校長 上田 義孝
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



いのち

(今年度の自他の生命(いのち)を大切にする教育の結びにかえて)

校長 上田 義孝

弥生3月、本年度の授業も最後のひと月となりました。本年度も本校の教育につきまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。今年度の学校だよりの結びとして、「いのち」について、巻頭言とさせていただきます。

人が生きていくうえで、大切なことは、学歴でもなく、肩書でもなく、お金でもありません。「いのち」が最も大切です。さらに、その「いのち」と「いのち」のつながり、つまり人と人のつながりも同じように大切です。そして話のできる友や、相談できる相手をもつことも大切です。ソーシャルメディアの発達で、真の気持ちを伝えることが難しい時代になりました。生の対話ではなく、メディアを通じたものが多くなり、感情や息づかい、ちょっとしたしぐさで伝わる気持ちが、伝わりにくくなりました。今ではゲームの中で対話をするることによるトラブルも多く聞かれるようになりました。また、当事者でない人の気持ちを代弁することによるトラブルも増えてきています。

これは、時代のもたらす影響なのかもしれません。SNSやYouTube、ゲームなどに関わる時間は確実に増えています。とても便利でありながら、ちょっと窮屈でもあり、息苦しくもあるように思えます。質的量的には豊かであっても、ストレスや悩みなどにより、生きづらさを感じるものが少なくありません。勉強やゲームで自分の思い通りにいかないなどの未達成なことや、子どもも大人もつらい出来事があると思います。

しかしつらい出来事や失敗は、様々な手立てをすることによって、いつしか解決できると私は考えます。また、未達成なことは、本人の思考の改革によって、達成できるようになるかもしれません。唯一、取り返せない失敗があるとすれば、「いのち」を失うことです。子どもも大人も、生きてさえいれば必ずどのようなことでも何とかかなるでしょう。つまり、優先順位はまず生きていくことです。

そしてその次は、小さな一歩を踏み出す勇気をもてるように進むことです。子どもや家族の困り感や悩み事をどのように解決していったらいいかを皆で考えたり、相談したりしてみるとよいと思います。

ありのままを受け止めてくれる人は必ずいます。ですから、困ったときはできるだけ早く、困っていることを誰かに話し、相談することが解決の始まりです。学校には担任のほかにも、スクールカウンセラーさんやスクールソーシャルワーカーの方がいます。

体の傷は見えるけれど、心の傷(悩みや困り感)は言わないと周りの人からは見えにくいものです。体の傷は手当てをするとよくなります。そして、小さな傷ほど治りも早いものです。心の傷も同じです。

かけがえのない「いのち」。一人一人が大切です。教職員一同、「いのち」を大切にしたい心の通い合う学校を目指します。保護者の皆様も引き続き、本校の教育そして、いのちを大切にする教育への、ご理解とご協力をお願いいたします。